

流行状況

手足口病 夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染

口の中、手や足の先の水疱性発疹

- ・ [夏のウイルス感染症](#)
- ・ 定点当たりの報告数は 2.7 (先週 2.9) とピークを過ぎました。

ヘルパンギーナ 夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍

- ・ [夏のウイルス感染症](#)
- ・ 定点当たりの報告数は 2.9 (先週 3.9) と減少傾向

咽頭結膜熱 発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症

- ・ 定点当たりの報告数は 0.20 (先週 0.10) と流行中

麻疹 (はしか)

- ・ 定点当たりの報告数は 0.17 (先週 0.14) と終息に向かっています。
- ・ 予防にはワクチンが有効

無菌性髄膜炎 細菌以外のウイルス等による髄膜炎のこと。

- ・ 基幹定点からの患者報告はないが、4 定点からコメントでの患者発生報告あり。
- ・ [エコ - 13 型ウイルス](#) による無菌性髄膜炎の流行に注意

サルモネラ 食中毒原因細菌の 1 つ

- ・ 9 定点からコメントでの患者発生報告あり。

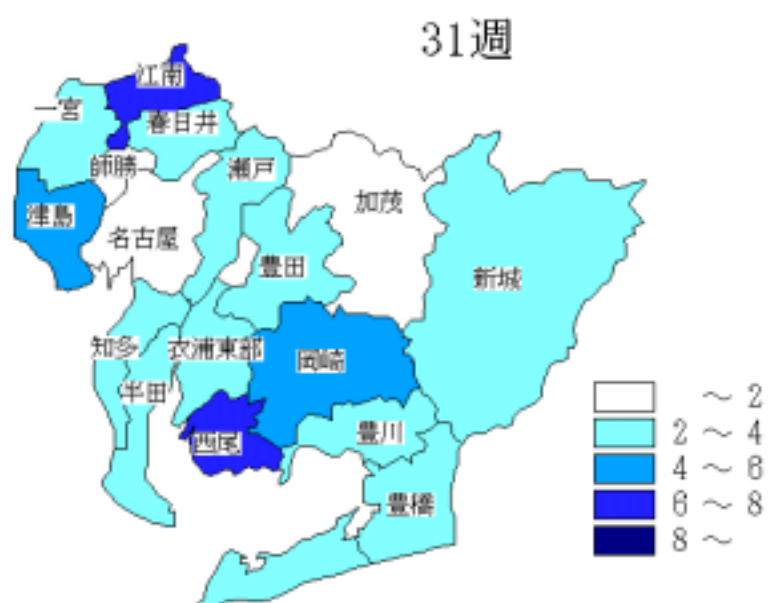
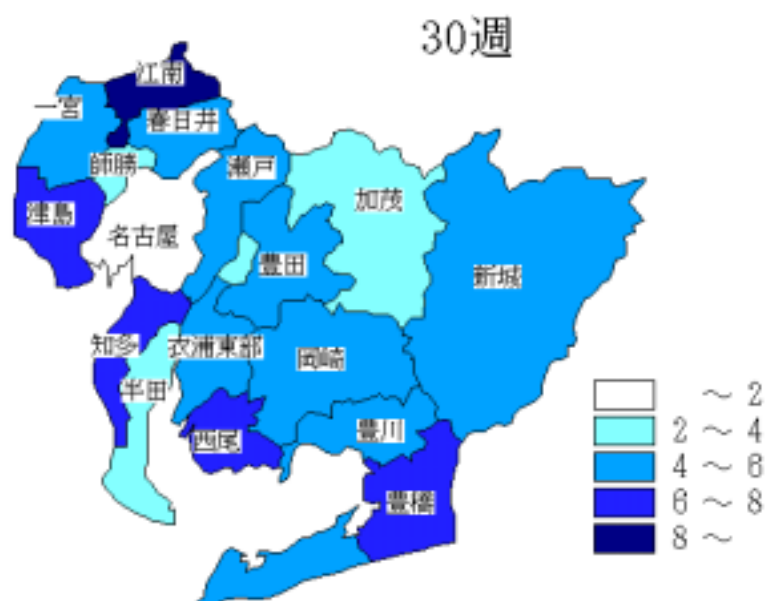
カンピロバクター 食中毒原因細菌の 1 つ

- ・ 5 定点からコメントでの患者発生報告あり。

感染症についての説明及びグラフ総覧については、

愛知県衛生研究所のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>) をご覧ください。

ヘルパンギ - ナの保健所別推移（名古屋市含む）



	31週	定点 当たり	30週	定点 当たり		31週	定点 当たり	30週	定点 当たり
名古屋市	96	1.37	111	1.59	岡崎	45	5.63	44	5.50
瀬戸	21	2.33	37	4.11	衣浦東部	37	3.36	61	5.55
津島	32	4.57	42	6.00	西尾	28	7.00	24	6.00
師勝	5	1.25	9	2.25	豊田市	29	3.63	36	4.50
一宮	38	3.17	55	4.58	加茂	4	1.33	7	2.33
春日井	35	3.89	45	5.00	豊橋市	26	3.25	54	6.75
江南	45	7.50	77	12.83	豊川	28	3.50	40	5.00
半田	21	3.50	16	2.67	新城	4	2.00	9	4.50
知多	26	3.71	47	6.71					

は今週警報が発生している保健所です。

ヘルパンギ - ナの流行発生警報は定点当たり 6.0 を越えた場合に発生し、2.0 を下回るまで継続します。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

便からアデノウイルス 1歳女、3歳男

カンピロバクター 1歳女

O1 38歳女、1歳女

O143 8歳女

麻疹、アデノウイルス感染症が急に増加しました。

(尾西市 城後小児科)

アデノウイルス感染を思わせる所見をもった患児散見。

(一宮市 後藤小児科医院)

サルモネラO9群 7/26 5歳、7歳男兄弟例がありました。

(木曽川町 さかたこどもクリニック)

ヘルパンギーナ、多発しています。2日間の発熱。

無菌性髄膜炎 4人入院。少し落ちついてきました。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

水痘2名、ヘルパンギーナ4名が見られます。

下痢は少なくなりました。

(稲沢市 医療法人野村整形外科)

5歳男 伝染性単核症

(新川町 三輪医院)

尾張東部地区

無菌性髄膜炎4名(7歳女、10歳男、10歳男、12歳男)

目立った感染症はありません。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

ヘルパンギーナ流行中。手足口病もまだみられます。

水痘、流行性耳下腺炎散発

(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)

4歳男 サルモネラ sp 腸炎

(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)

手足口病、及びヘルパンギーナの流行まだつづいています。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病がみられました。

(春日井市 かちがわ北病院)

サルモネラ、カンピロバクター腸炎が多いようです。

(小牧市 志水こどもクリニック)

手足口病流行している(口腔所見主体)。無菌性髄膜炎減少

(小牧市 小牧市民病院)

手足口病が多い様です。

(小牧市 鈴木小児科)

2歳女 サルモネラO6による腸炎

(東海市 小児科ハヤカワ医院)

西三河地区

無菌性髄膜炎 13歳女

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

マイコプラズマ肺炎 2歳女

(豊田市 医療法人やふそ小児科)

3歳男 サルモネラO4

(岡崎市 花田こどもクリニック)

2歳女 病原性大腸菌 O18 VT(-)

10歳女 病原性大腸菌 O1 VT(-)

(岡崎市 にいのみ小児科)

1歳女 マイコプラズマ肺炎

6歳女 病原大腸菌 O1

(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)

2歳男 カンピロバクター+病原性大腸菌 O1(VT1-、VT2-)

10ヵ月男 病原性大腸菌 O6(VT1-、VT2-)

(幸田町 とみた小児科)

6歳 サルモネラO9

(刈谷市 田和小児科医院)

サルモネラO4 4歳男

(碧南市 永井小児クリニック)

30歳男、27歳女 カンピロバクター

(西尾市 やすい小児科)

EBウイルス感染症 7歳男

腸炎ビブリオ 42歳女

今週も手足口病、ヘルパンギーナが目立ちました。

(西尾市 山岸クリニック)

ムンプスがまだ流行しています。

(三好町 三好町立三好病院)

1歳男 サルモネラO7

(三好町 三好丘こどもクリニック)

東三河地区

サルモネラO9 1名(小学生女)、カンピロバクター腸炎 2名(小学生女)

(豊橋市 あずまだこどもクリニック)

受診者以外にも母親等で手足口病増えています。

(豊橋市 富田小児科)

月報コメント(MRSA、薬剤耐性緑膿菌感染症について)

転医入院(又は紹介)して来た時点ですでに保菌している患者がいる。

(新城市 新城市民病院)

2歳男 *E.coli* O25

(田原町 かわせ小児科)

1～3類感染症の発生状況

腸管出血性大腸菌感染症

・豊橋市保健所報告 2歳女 7/25発病 7/28初診 8/1診定

菌型 O26 VT1(+)

感染経路不明

・西尾保健所報告 36歳女 7/29初診 8/2診定

菌型 O157 VT2(+)

感染経路不明

全数把握の4類感染症の発生状況

今回報告はありませんでした。

第 29 週(14 年 7 月 15 日～7 月 21 日)の 4 類感染症の全国状況

定点把握の対象となる 4 類感染症（週報対象のもの）

感染性胃腸炎は緩やかに減少を続けているが、過去 5 年間の同時期と比べて定点当たり報告数は依然としてやや多く、都道府県別では福井県（5.8）、宮崎県（5.0）からの報告数が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は再び増加し、1999 年からの 3 年間の平均の 3 倍を超えた。都道府県別では岡山県（6.8）からの報告が急増した外、熊本県（3.3）、滋賀県（2.3）からの報告が多い。他の疾患の定点当たり報告数は、過去 5 年間の同時期と比べて特別多くなっているはいない。オウム病以外のクラミジア肺炎が千葉県（0.4）からの報告を反映して、3 週間ぶりに定点当たり報告数が増加へ転じている。ヘルパンギーナと手足口病の定点当たり報告数は今週増加が一休みしたが、都道府県別では前者が群馬県（7.6）、千葉県（6.9）、栃木県（6.9）、神奈川県（6.6）、後者が岡山県（6.7）、神奈川県（6.1）、宮城県（5.4）、和歌山県（5.3）と報告の非常に多い県が残っている。咽頭結膜熱も今週は全体としての増加はないが、都道府県別では滋賀県（0.94）で引き続き増加が見られる。水痘は前週から一転して報告数が減少したが、都道府県別では福島県（3.2）、宮城県（3.0）、山形県（2.5）からの報告数が依然として多い。流行性耳下腺炎と流行性角結膜炎は全体の定点当たり報告数に大きな変化はないが、都道府県別で前者が岩手県（4.2）、福島県（3.9）、宮城県（3.9）で多く、後者は宮崎県（6.0）が非常に多い。百日咳、風疹の定点当たり報告数は、全体としては例年よりかなり低い水準を保っている。

（ Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センタ - 感染症情報室提供 ）

詳細は感染症情報センタ - のホ - ムペ - ジ（ <http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html> ）の
感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

連日の酷暑にパキスタン・カラチやインド・ウタルプラデシュ州、アフガニスタン南部の夏を思い出しています（むこうでは 45 の中で野外調査の毎日でした）。コンクリートジャングルの名古屋の夏も相当な凄さですが。いつもお世話になります。7 月後半のまとめをお送りします。

- 1．名古屋地区：ECHO13 型の夏カゼに合併した無菌性髄膜炎の流行が相変わらず発生中で県全域に広がっていますが、その後の先生方からのお手紙では前回同様、脳炎脳症などの中枢神経合併症の頻度は幸いなことに低いようです。分離ウイルスもそれほど中枢神経系に障害をきたすような所見はないようです。その他、城北病院渡辺先生からは発熱患者は多いが特徴的な口内所見は少なく、ヘルパンギナや手足口病は少ない。第二日赤岩佐先生からは発熱、頭痛、嘔吐の患者が多い、千種区今枝先生からは夏休みになって無菌性髄膜炎減少、熱だけの夏カゼがぼつぼつ、手足口病が散発中、三菱病院岩間先生からは溶連菌感染症、ヘルパンギナ、感染性腸炎（キャンピロバクタ）、手足口病、アフタ性口内炎、中京病院柴田先生からは手足口病とヘルパンギナ、大同病院水野先生からは麻疹は減少、水痘と膿痂疹が目立ち百日咳（生後 1 ヶ月）2 名入院、マイコプラズマ肺炎が多く、サルモネラ腸炎多発とのお手紙をいただきました。
- 2．尾張地区：犬山市武内先生からは A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、水痘、ヘルパンギナ、手足口病が散発中、江南市昭和病院西村先生からは水痘、ヘルパンギナ、乳児の発熱（ウイルス感染症）が目立つ、津島市民病院沼田先生からはヘルパンギナ、常滑市民病院上田先生からはヘルパンギナ、手足口病、ウイルス性腸炎、細菌性腸炎（大腸菌）、溶連菌感染症が目立つとのお手紙でした。
- 3．三河地区：トヨタ病院木戸先生からは中学校で麻疹による学級閉鎖 2 校あり、知立市近藤先生からは水痘、乳児嘔吐下痢症が流行、ヘルパンギナ、溶連菌感染症が散発中、マイコプラズマ肺炎目立つ、刈谷市田和先生からは手足口病とヘルパンギナ、溶連菌感染症、水痘いずれも散発中、永井先生からはヘルパンギナ流行中、手足口病散発中、豊橋市宮澤先生からは手足口病、ヘルパンギナ、細気管支炎が目立つとのお手紙でした。
有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2002 年 6 月 21 日号 (77 巻 25 号)

ポリオ根絶計画。アフガニスタンとパキスタン：00 年 1 月 - 02 年 4 月、W H O 東地中海地区に属しているアフガニスタン、パキスタンでは 94 年からポリオ根絶作戦が展開され発生数は激減したがまだ残っている。本報は同期間の状況である。

定期接種：乳幼児期のパキスタン最大州のパンジャブで 82%、同国西部の僻地バロチスタンで 33%、アフガニスタン東北部で 15%、同東部で 85%となっている。

全国一斉接種と地域単位の追加接種：パキスタンでは 94 年から全国一斉接種が実施され、99 年から追加接種が年 2 - 3 回、02 年にはポリオウイルス野生株陽性地区を重点的に実施されている。アフガニスタンでは 97 年から年 2 回追加接種が実施され、戸別訪問による接種強化が試みられている。

サ - ベイランス：パキスタンではウイルス検査材料収集率は 83%、分離陽性率は著明に上昇した。アフガニスタンの検体収集率は同国が困難な状況にあるにもかかわらず 73%でウイルス検査はパキスタン・イスラマバードで実施されている。

ポリオ発生頻度：01 年パキスタンの野生株ウイルス確定患者数 116 例、うち 1 型 69 例、3 型 46 例、他は混合感染であった。01 年のアフガニスタン報告例数は 11 例 (10 例 1 型、1 例 3 型)、パキスタンとの国境地帯に多かった。

インフルエンザ (02 年 6 月)：アルゼンチン。B 型主体で A 型と混合流行
6 月 14 日 - 6 月 20 日届出。コレラ：ソマリア

2002 年 6 月 28 日号 (77 巻 26 号)

出血熱：ガボン。02 年 6 月 19 日、ガボン保健省は 2 名の出血熱発生を報告。W H O と同国保健省調査団が調査。臨床診断は出血熱。検査材料入手不能。発生地域は東北部のオゴウェ地区 (シュバイツァ - 活躍・水と原生林地区)。継続調査中

77 巻 1 - 26 号索引。疾患別と地域別

Dracunculiasis (水系寄生虫症。中間宿主はミジンコ。汚染された生水で経口感染。親虫は下腿皮下を破って水中に産卵)：エチオピアとウガンダ。エチオピアでは増加。

保健省は対策として これまで報告のあった地区のサ - ベイランス強化、各戸に藁の水濾過器配布、旅行者が飲料水にする道路傍の池の清掃、を主体としている。ウガンダでは 91 年の 126,369 例が 01 年には 55 例となり根絶可能となったが、地域紛争による常在国ス - ダンからの難民の移動の問題を抱えている。

インフルエンザ (02 年 6 月)：アルゼンチン。B 型主体で A 型と混合流行。
6 月 21 日 - 6 月 27 日届出。コレラ：ウガンダ

2002年第31週 (平成14年7月29日～8月4日)

2002年第51週(平成14年7月29日~8月4日)	定点数
----------------------------	-----

[illegible]

愛知県感染症情報

2002年第31週 (平成14年7月29日～8月4日)

愛知県衛生研究所

[illegible]

愛知県感染症情報

2002年第1週～第31週(平成13年12月31日～平成14年8月4日)(累計)

愛知県衛生研究所

愛知県		定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎*	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋を含む)		191	182	35	51	13	35,688	392	4,913	24,423	8,911	4,650	1,683	3,879	51	97	5,667	2,035	6,037	12	629	1	3	17	60	1	22
総数 (名古屋市は除く)		121	112	24	37	12	28,055	250	3,458	16,452	6,724	2,925	1,307	2,996	32	68	4,769	1,607	4,983	8	451	1	3	17	60	1	22
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	7,633	142	1,455	7,971	2,187	1,725	376	883	19	29	898	428	1,054	4	178						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2,301	36	504	1,140	444	451	40	166		6	138	80	375	1	16			15			
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1,229	5	65	1,096	396	114	102	128	1	7	349	73	267	1	27		1		2		
尾張中部	師勝	4	4	1	1		794	2	22	1,257	105	48	20	61		6	111	29	19	1	15						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	2,068	23	383	2,409	706	230	69	358	3	3	292	231	307	1	30						
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	1,955	13	400	801	790	359	141	241	3	6	227	133	224		26		1		2		6
	江南	6	6	1	2		1,780	45	348	1,530	455	146	90	72	1	5	346	66	211		24						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,319	17	94	510	258	107	220	139	1	3	101	132	218		12	1			1		12
	知多	7	7	2	2		2,383	33	110	980	436	345	83	228	4	7	429	224	210		17						
西三河南部	岡崎	12	8	2	3	1	2,984	18	354	136	821	310	174	461	5	2	521	72	711		116						
	衣浦東部	11	11	2	4	1	3,475	8	284	1,031	702	176	102	281	5	7	555	203	266	1	17				1		
	西尾	4	4	1	1	1	281	4	57	470	221	28	14	72		6	209	22	111	1	55				1		3
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	1,416	17	154	867	383	227	66	196	7	7	292	125	603		37			2	21		
	加茂	3	3		1		366	1	25	325	89	78	10	67			45	39	220								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	3,013	14	458	2,157	520	155	84	293		1	510	75	705	1	56		1		25		
	豊川	9	8	1	2	1	2,557	14	197	1,742	349	141	88	227	2	1	614	95	451	1	3				7	1	1
東三河北部	新城	2	2			1	134		3	1	49	10	4	6		1	30	8	85								

* 無菌性髄膜炎について、15名の追加訂正報告あり

愛知県感染症情報

2002年第1週～第31週(平成13年12月31日～平成14年8月4日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎*	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
計	28,055	250	3,458	16,452	6,724	2,925	1,307	2,996	32	68	4,769	1,607	4,983	8	451	1	3	17	60	1	22
～6ヶ月	202	1	4	223	179	18	3	250	9	3	49	40	4		6						
～12ヶ月	552	13	18	1,151	481	137	43	1,951	8	11	378	255	24		3						
0歳																					
1歳	1,728	38	78	2,638	1,269	540	77	746	10	14	1,245	384	243	1	10		1	1	2		
2歳	1,927	40	165	1,959	1,119	545	101	32	3	4	988	137	384		7		1	3			
3歳	2,046	42	375	1,687	1,285	589	148	2		2	824	127	790		10			2	1		
4歳	2,313	46	664	1,397	1,139	483	186	4		5	642	74	1,067		9		2	4			
5歳	2,162	23	620	1,131	622	295	207	6	1	9	321	74	834		8						
6歳	1,959	13	485	809	260	165	174	2		1	138	62	579		3						
7歳	1,944	14	348	691	125	72	148	1		1	75	69	347		5						
8歳	1,797	3	241	574	66	31	99	1		4	41	67	206		5						
9歳	1,701	7	144	473	39	14	55			1	16	54	125		5						
5歳～9歳																	12	19			
10歳～14歳	5,099	5	194	1,119	81	16	41	1		5	26	199	248	1	10		1	13			
15歳～19歳	1,123		15	347	8	2	2				7	30	21	1	19			3			2
20歳～		5	107	2,253	51	18	23		1	8	19	35	111			1	2				
20歳～29歳	1,100													3	58				3		16
30歳～39歳	1,424													1	110				4		3
40歳～49歳	446													1	46				3		
50歳～59歳	257														54				2		
60歳～69歳	165														44				1		1
70歳～															39						
70歳～79歳	73																		1		
80歳以上	37																				

* 無菌性髄膜炎について、15名の追加訂正報告あり